

---

一般講演・口頭発表 O-07

## 大正川(大阪)と寺田池(兵庫)に生息するミシシippアカミガメの幼体の性比

西堀智子(和亀保護の会)

The sex ratios of Juvenile red-eared sliders, *Trachemys scripta elegans*, in the Taisho River, Osaka and the Terada Pond, Hyogo.

Tomoko NISHIBORI (*Society for the Conservation of Fresh Water Turtles of Japan*)

---

ミシシippアカミガメは温度依存性決定であるが、日本国内に輸入される個体は高温で管理されるため、圧倒的にメスが多いと言われている。したがってそれらが国内で放逐され、野外で定着した経緯から、野外で見つかるミシシippアカミガメの性比にも反映すると考えられていた。

大正川周辺(大阪府)と寺田池周辺(兵庫県)で捕獲したミシシippアカミガメの成体も全体の75%前後がメスであったが、その形状から飼育個体が放逐されたものではなく、野外で繁殖した個体だという印象が強かった。

そこで、飼育者が放逐する可能性の少ない、外部形態から雌雄が決定できないような小型のミシシippアカミガメ、つまりそれぞれの地域で野外繁殖したと思われる幼体120個体(大正川周辺)と105個体(寺田池周辺)を解剖し、雌雄の割合を調べた。

その結果、大正川周辺ではオス24.2%・メス75.8%、寺田池周辺ではオス23.8%・メス76.2%と、成体の性比とほぼ同様の数値でメスに偏る傾向が見られた。したがって、調査した2地点の個体群では、もはや放逐された数は全体の性比に影響を与えるほどではなく、ほとんどが野外繁殖個体だと推測された。

調査地では原産国のようにミシシippアカミガメのメスがワニなどの捕食者によって捕食されやすい、というような条件もないことから、成長の過程でその比が大きく変わることはないと推測される。したがって多くのメスによって、さらに多くのメスが再生産される。これは日本国内でのミシシippアカミガメの増殖速度を高めている原因の1つとなっている可能性が考えられ、外来種対策の遅れに警鐘を鳴らすものとしてとらえられるべきだろう。